

～「学習し続ける人」の育成～

(知育①： 確かな学力を身に付け、思いや考えを表現できる子どもを、学習習慣を形成し、授業改善を進めることを通し育みます。)

家庭学習の必要性

子どもの理解の速さや得意不得意は一人一人違うものです。授業だけでは不十分なこともあります。家庭での学習習慣を身に付け、自分に必要な学習の補充や定着を進めることが重要です。

家庭学習の目的

- ①家庭で自ら学習する習慣を身に付ける。
- ②学習したことを定着させることで、「できた」「わかった」を増やし、自信をもたせる。

- ・基礎的、基本的な学習内容を身に付けている子
- ・学習する方法や習慣を身に付けている子
- ・やる気、根気をもって、自分から学習しようとする子
- ・自分に必要な学習を見つけることができる子

宿題＋自学（自主学习）＝家庭学習

宿題：授業に直接関わる内容で、授業担当者から出された課題。

(ドリル、プリント、教科書の練習問題など)

自学：子どもが自分で内容や量を決めて取り組む学習活動。

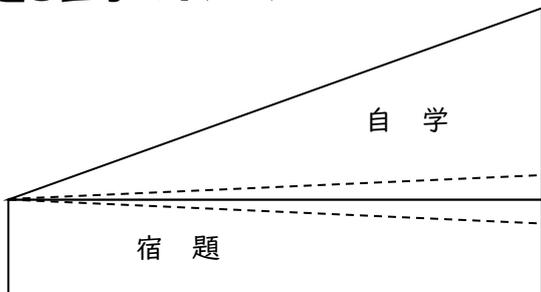
(自学ノート、通信教育、市販ドリルなど)

家庭学習の目安の時間

10分＋学年×10分

宿題と自学のイメージ

(例) 8年生 10分＋8×10分＝90分



1・2年 3・4年 5・6年 7～9年

- ・学習時間は高学年になるほど多くなります。
- ・内容は高学年になるほど自学の割合が増えていきます。
- ・宿題の量は高学年になるにつれて増減があります。

必ず丸付けをした状態で提出します。

- ・すぐにやり直しを行うことで学力が定着する、ご家族の励ましにより意欲が高まる、などの学習効果が期待されます。
- ・○×を付けるだけでなく、考え方や正答の導き方を自分で確認する(解き直す)ことが大切です。

I 初等部【学習し続ける人】

・1～2年生

低学年は家で机に向かう時間があればOKです。自主学習は自分の得意なことだけやっても、机に向かっていることをほめてあげましょう。宿題と復習をすることで理解力が伸びていく時期です。

教科	学習内容	取組の例
国語 書写	音読	①教科書をつまづかないで読めるようになるまで音読する。
	視写	②教科書や好きな本の一部分を丁寧にノートに視写する。
	漢字練習	③教科書やプリントを見て、ノートに書く。 ④ノートに読みがなを書いて問題を作り、漢字を書く。 ⑤習った漢字を使って短文を作る。
	日記・作文 感想文	⑥毎日のできごとをノートに書く。 ⑦絵日記にする。 ⑧読書をして、感想をまとめる。
算数	練習問題	⑨教科書やドリルの問題を繰り返しノートに解く。 ⑩教科書巻末のまとめの問題に取り組む。 ⑪たし算や九九などの100マス計算をする。 ⑫過去のチャレンジテストや単元テストなどにもう一度取り組む。 ⑬自分で計算問題や文章問題を作って解く。
その他 の教科	実技練習など	⑭その他(①～⑬以外) 鍵盤ハーモニカやなわとびの練習など

・3～4年生

さらに中学年は教師のアドバイスを受け、いろいろな自主学習の方法(テーマ)にも取り組めるようにしたいです。日記、俳句、川柳、マス計算、調べ学習、スケッチ(理科的、図工的)、リコーダー、水に顔つけ、なわとび…。

教科	学習内容	取組の例
国語 書写	音読	①教科書をつまづかないで読めるようになるまで音読する。
	視写	②教科書や好きな本の一部分を丁寧にノートに視写する。
	漢字練習 意味調べ	③ノートに読みがなを書いて問題を作り、漢字を書く。 ④漢字の部首や画数を調べてノートにまとめる。 ⑤辞書で語句やことわざなどの意味を調べてノートにまとめる。 ⑥習った漢字や調べた語句・ことわざなどを使って文章を作る。
	日記・作文 感想文	⑦毎日のできごとや気持ちをノートに書く。 ⑧心に残ったことを作文にする。 ⑨読書をして、感想をまとめる。
	ローマ字	⑩ローマ字でノートに単語を書く。
算数	練習問題	⑪教科書やドリルの問題を繰り返しノートに解く。問題文も書く。 ⑫過去のチャレンジテストや単元テストなどにもう一度取り組む。 ⑬教科書巻末のまとめの問題に取り組む。 ⑭時間を計って計算問題に取り組む。 ⑮自分で計算問題や文章問題を作って解く。
理科 社会 など	復習 まとめ	⑯学習したところを自分で整理し、ノートにまとめる。 ⑰大事なことを図や絵を工夫するなどして、ノートにまとめる。 ⑱都道府県の名称や位置を覚えたり漢字で書いたりする(4年)。 ⑲学習と関係のあることを調べてまとめたり、その感想を書いたりする。
その他 の教科	実技練習など	⑳その他(①～⑱以外) リコーダーやなわとびの練習など

II 中等部 56 年生【計画し、実行する人】

・5～6年生

中等部では、今自分はどんな学習をしたらよいかを選び、実行することが大切です。進んで自分の不得意をなくすことで学力が向上します。メディアの誘惑に負けないように学習環境を整え、規則正しい生活リズムで臨めるよう、見守ってあげてください。

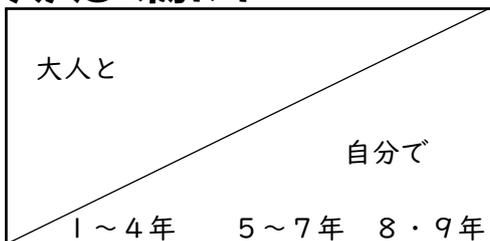
目指す姿「計画し、実行する人」は中等部の7年生も一緒ですが、後期課程に入り教科担任制が進むなどの変化がみられるため、家庭学習内容は高等部の取組の例を参考にしてください。

教科	学習内容	取組の例
国語 書写	音読 黙読	① 教科書を音読したり、詩や俳句・短歌などを暗唱したりする。 普段から新聞や本を読み、家族や友達と意見を交流する。
	視写	② 教科書や好きな本の一部分を速く正確に書き写す。
	漢字練習 意味調べ	③ ノートに読みがなを書いて問題を作り、漢字を書く。 ④ 教科書やドリルなどを見て、これまでに学習した漢字を復習する。 ⑤ 漢字の部首や画数を調べてノートにまとめる。 ⑥ 辞書で語句やことわざなどの意味を調べてノートにまとめる。
	日記・作文 意見文・感想文	⑦ 日記をつけたり、自分の考えたことをノートに書いたりする。 ⑧ 教科書の文や自分で選んだ本について、筆者と自分の考えを比較しながら感想を書く。 ⑨ 本を読んで、帯やパンフレット、紹介文などにまとめる。 ⑩ 俳句や詩などを自分で創作する。
算数 数学	練習問題	⑪ 教科書やドリル、ワークの問題を使い、繰り返しノートに解く。 ⑫ 教科書巻末のまとめの問題に取り組む。 ⑬ 自分で計算問題や文章問題を作って解く。 ⑭ プリントや過去のチャレンジテストや単元テストなどにもう一度取り組む。 ⑮ これから学習するところを予習する。
理科 社会 外国語 英語	復習 まとめ	⑯ 学習したところを自分で整理し、工夫してノートにまとめる。 ⑰ 教科書の資料からわかることをまとめる。 ⑱ 学習した内容をさらに深める調べ活動をする。 ⑲ 歴史上の人物やできごとについて調べる。 ⑳ ローマ字の復習をする。 ㉑ 英語の教科書を見て、アルファベットや習った単語を読んだり書いたりする。
その他	実技練習など	㉒ その他 (①～㉑以外) リコーダーやなわとびの練習など

・まなびポケットの活用

担任からの「学習指示」だけでなく、「自由学習」で、自分で好きな教科を選択して学習に取り組むことができます。当該学年の学習はもとより、既習事項の復習をしたり、この後の学習の予習をしたりすることができます。

大人との関わり



中等部では自分で課題を見つけ進んで不得意をなくす学習ができる姿が理想です。そのために低学年では大人がたくさん関わり、子どもをほめ、やる気を伸ばします。少しずつ不得意を理解させ不得意なことにも取り組むように促し始めます。

初等部では継続することをほめ、自信をもたせ、不得意なことにも取り組むようはたらきかけます。

具体的な内容を上に示しましたので、この中から自分で選んでやるか、もしくはおうちの人と相談して学習内容を決めます。

ご家庭では「今日の自学は何をするの?」「自学は何をしたの?」と声を掛けてください。お子さんが今日の自学を思い出したり、見ていてくれる嬉しさで意欲が高まったりします。

Ⅲ 後期課程

中等部7年生【計画し、実行する人】 / 高等部89年生【改善する人】

・7～9年生

毎日の継続と改善が大切です。学習で困ったときは、教科担当の先生に相談しましょう。

教科	学習内容	取組の例	各教科の先生から
国語	音読	①教科書を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> ・音読をすると脳が活性化します。家庭学習の始めに、教科書の詩や古文漢文を音読するのがおすすめです。 ・復習に力を入れてほしいです。
	漢字練習	①漢字練習「よく見て」「熟語で」「声に出して」書く。 ②問題集があれば、取り組む。「すぐに丸つけ」→「わからない問題をチェック」→「解き直し」	
	日記・作文 意見文 感想文	①普段から本や新聞などを読み、自分なりの感想をもつ。 ②小説や俳句・短歌・詩など、日頃から自分の思いを表現する。	
数学	練習問題	①授業で扱った問題や宿題プリント・ワークをもう一度解き直す。 ※一度やったことのある問題を繰り返し解いて定着&スピードUPを図る。 ②できる問題をたくさんやるよりも、少しの量でも間違った問題やできなかった問題をじっくりやる。 ※それを繰り返すことで、できる問題をさらに増やしていきます。 ③「②」の取組をさらに深めていく。 ※わからない問題を絶対に放置しないことが大事です。	<ul style="list-style-type: none"> ・とにかく復習を大切にしてください。わからない問題も当然出てくると思いますが、粘り強く数をこなすことで少しずつ力が身に付いていきます。
社会	復習 まとめ	①授業であつかったワークシートの見直しをする。 ②ワークの問題を2回、3回解く。 ③重要語句（事象・出来事）を説明出来るようにする。 ④ワーク問題文が覚えられるくらいやりこむ。 ⑤自分なりのまとめノートを作る。 例：歴史の時代ごとにキーワードをまとめる など	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象には必ず背景があります。その仕組みを理解すると、単なる「暗記」から抜け出せます。 ・社会科の中で興味をもてる事がら一つでも多く見つけよう。
理科	復習 まとめ	①「毎日の復習」のワークを使い、その日のうちに復習する。 ※とにかく復習することで、知識が付きます。復習は大切です。 ②言葉やイラストを使い説明できるようにする。 ③教科書の単元末にある「基本問題」「応用問題」を解いてみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず自分で解答を見て丸を付けましょう。 ・間違ったら教科書を使い、調べて正しい答えを書きましょう。
英語	復習	①単語練習をする。「声に出して」「よく見て」「つづりを確認」 ②教科書を音読する。 ③ジョイフルワークを使い、その日のうちに復習する。 ④英会話や英文法をすらすら言えるようにする。 ⑤毎日単語練習をする。 ⑥学習した英文を使って日記を書いてみる。 ⑦自分の考えを英文で表現する。 ⑧発展問題などの高度な問題に挑戦する。	<ul style="list-style-type: none"> ・速いスピードで英語を読むことは、速いスピードの英語を聞き取ることに結び付きます。 ・単語を入れ替えたり、日記を書いたりすることは、英語でものを考えることに結び付きます。